

ふれあいサロン活動助成



泊村内で実施しているサロン活動を支援します!!

目的

高齢者の日々の生活の中に交流の機会を増やし、ふれあいサロンに参加することによって、孤独感の解消、閉じこもりの予防、生きがいつくり、介護予防等に繋げることなどの効果が認められております。さらに、同じ地域に暮らす住民同士が、共に生活の基盤としている身近な地域において定期的に親睦を図るサロン活動を応援するため、活動費の一部を助成します。

助成条件

- (1) 人数: サロンの参加が平均5名以上あること
- (2) 回数: 月1回以上、年間10回以上開催していること

助成額

- (1) サロン出席者10名以上の場合、1回の開催につき1,000円、5名から9名の場合、1回の開催につき500円を助成
- (2) 助成回数は、年24回を上限とする

本事業に関する問い合わせ、また活動を新たに始めてみたい方、サロン運営(送迎・内容・会場・参加者の呼びかけ等)に関することは、お気軽に本会にご相談ください。



ひまわり会

ワークキャンプを開催



講義「地域で支え合うこと」



寸劇



認知症サポーター養成講座

12月16日(木) 泊村地域包括支援センターと共催で泊中学2年生を対象に、ワークキャンプ&認知症サポーター養成講座を開催しました。ワークキャンプは本会の恒例事業として、毎年中学生に介護の職場活動を体験してもらい、「福祉」について理解を深めることを目的に2日間で開催しておりましたが、今年は1日に短縮しての実施となりました。

始めに社協局長が「地域で支え合うこと」について講演し、その後、認知症を持つ方への支援について学ぶため、講義・寸劇・認知症予防の体操などの体験をしました。認知症予防の体操では、3人1組となり全員が参加し、身体を動かしながら「しりとり」をするなど楽しみながら、理解を深めることが出来ました。

愛のふれあい訪問活動事業

本年10月から恒例の「愛のふれあい訪問活動事業」を実施しております。ふれあい弁当の配布にあたり、ボランティア27名の方々にご協力いただき、毎月約320個のふれあい弁当を対象者の方々へ配布しております。北海道内でも、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況下での事業実施になりますが、ボランティアの皆さんは感染対策に配慮して活動を実施しております。配布日については、有線放送にてお知らせいたします。



除雪サービス事業



12月から「除雪サービス事業」が始まりました。実施にあたって、ボランティア15名の方々にご協力いただき、来年の3月末まで対象者世帯の除雪を実施します。

実施期間中であっても、体調・身体面で除雪の実施が難しくなった方がおりましたら、本会までご相談ください。



団 体 報 告

泊村身体障がい者福祉協会「友愛訪問」



友愛訪問

新型コロナウイルス感染が拡大している状況化のため、毎年開催している研修会の開催をやむを得ず、自粛することに致しました。代替え事業として、10月16日(金)泊村身体障がい者協会の役員3名が分担して会員宅への「友愛訪問」を実施しました。会員世帯(合計23名)を訪問した際には、新型コロナウイルス感染予防への声かけ、困っていることがないか確認するとともに、くだものを配布し、会員から「なかなか皆さんにお会いできなく、寂しく感じていましたが、訪問していただき、温かい気持ちになりました」と喜びの声が聞かれました。

新 入 会 員 募 集

活動内容

泊村身体障がい者福祉協会では、会員23名が連携を深め活動しております。主な活動は、スポーツ大会・研修会・交流会等の開催などです。会員一同が楽しみながら、活動に参加しております。

対 象

泊村に居住する身体障がい者とその家族(保護者)及び本会の主旨に賛同する方が対象となります。

加入方法

本会の主旨に賛同され、入会希望の方がございましたら、本会までご連絡ください。



研修会



友愛訪問

老人クラブ連合会「友愛訪問」

泊村老人クラブ連合会でも、各老人クラブ役員が分担し、10月13日(火)会員宅に「友愛訪問」を実施致しました。5つの老人クラブ会員世帯(合計119名)に各地域の老人クラブ会員が訪問し、近況を確認し合いながら、会員へくだものを配布致しました。

新 入 会 員 募 集

活動内容

仲間づくりを通じて、生きがいと健康づくり、共に生活を豊かにする有意義な活動を行うとともに、その知識や経験を生かして、地域の諸団体と共同し、社会貢献活動にも取り組み、明るい長寿社会づくり、保健福祉の向上に努めることを目的としています。

対 象

泊村に居住する高齢者で、概ね60歳以上の方を対象としています。

入会方法

入会希望の方は、本会またはお住いの地域の各老人クラブにご連絡ください。



老人クラブ連合会中学生との交流会

泊村共同募金委員会

泊村共同募金委員として永年ご活躍なされた6名に対し「北海道共同募金会共同募金永年勤続表彰」が決定し、表彰状及び記念品を贈呈致しました。

永年勤続(10年以上) 受賞者(敬称略)

- ・伊名野 美奈 様
- ・大橋 正子 様
- ・金子 和恵 様
- ・細井 千代子 様
- ・妹川 一教 様
- ・山本 礼子 様

募金活動にご協力いただきありがとうございます。



細井 千代子 様



新しい年を 迎えて



社会福祉法人泊村社会福祉協議会
会長 檜垣 馨



村民の皆様、明けましておめでとうございます。令和3年の新春を健やかに迎えられらことを、心からお慶び申し上げます。昨年は新型コロナウイルスに始まり、感染拡大の歯止めが聞かないまま年を超えてしまいました。新型コロナウイルス感染拡大の観点から私たちは、普通の生活、会話ができることや、地域の祭りやイベントでの交流が出来ることの有難さを感じた方もおられるのではないのでしょうか。目に見えないウイルスとの戦いは、世界中の医学者の英知と努力によってワクチンが開発され、間もなく、私たちにも届くものと思われませんが、それまでは辛抱強く感染予防の基本である「マスク着用」「手洗い・うがい」「換気」と、三密の回避(密集・密接・密着)を心掛けねばと思っていますところ。ワクチンによる感染の抑え込みが全世界に広がり、人々の交流が自由になることと、全世界が平和に向かって歩める年になることを祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。

泊村災害ボランティアセンター運営設置マニュアルの策定状況について

泊村社会福祉協議会では、万が一泊村で大規模な災害が発生した際に備えて、住民支援、関係機関との連携、各地から集結するボランティアを受け入れなどの運営指針となる「泊村災害ボランティアセンター運営設置マニュアル」の策定を進めています。大規模災害発生時に、必要となる個別支援を円滑かつ効率的に活動に結びつける計画策定が重要であり、令和2年度の本会重点事業として、令和2年度末を目処にマニュアルの策定を進めております。

災害ボランティアセンターとは

地震や水害、火山噴火などの災害発生時から復興に至るまで、被災地の個別支援などを行うボランティア活動の拠点を目指します。土砂の清掃、廃棄物の移動、家屋の片付け等の直接的な復旧支援を中心に、相談支援、仮設住宅での仲間づくりなど被災者のニーズに対応した活動を行います。

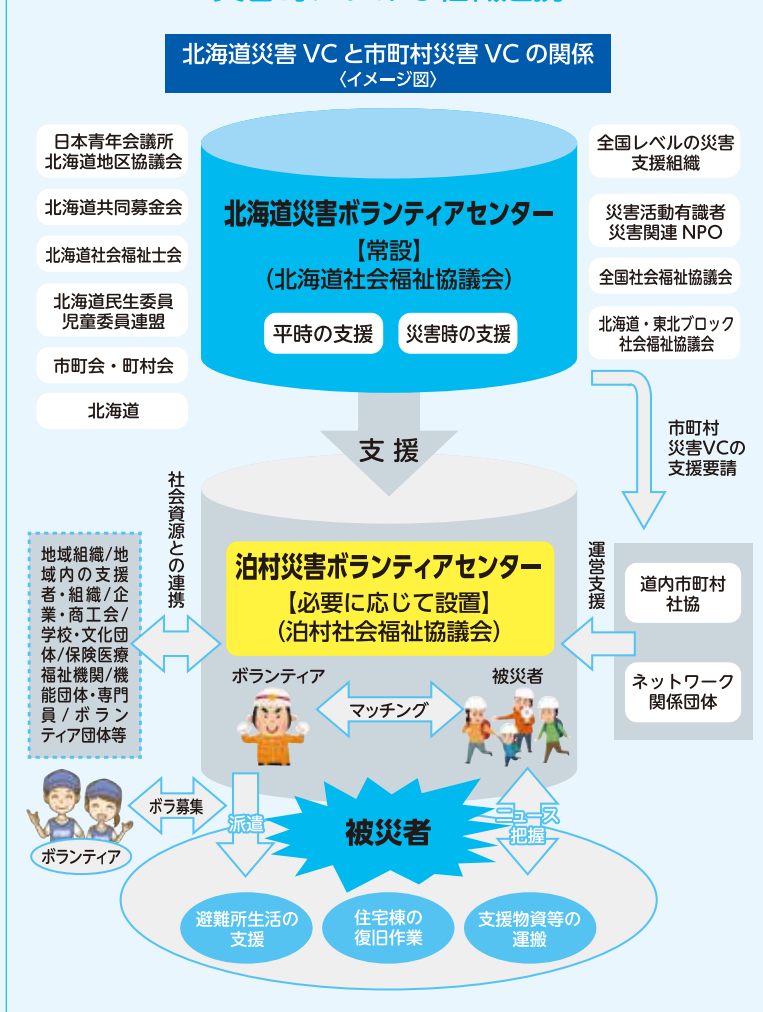
泊村災害ボランティアセンター設置目的

「泊村災害ボランティアセンター」は大規模災害等が発生した際に、泊村災害対策本部との連携により、設置される被災地におけるボランティア活動の拠点であります。災害時に生じた、困難・課題を軽減・解決するため、村内はもとより、道内外から駆け付ける多くのボランティアを被災者及び避難所等からの要請をもとに、必要としている場所へ派遣し、ボランティアの安全を確保し、地域の復旧・復興と被災者の自立生活を支援することを目指しています。2018年に発生した北海道胆振東部地震では、厚真・安平・むかわ町で合計13,790人のボランティアが活動しました。

職員の動き

退職 デイサービス介護職員
佐々木 美津子 (12月31日付)

災害時における組織連携



この広報誌は共同募金の配分金を用いて発行しております。